

令和7年度 学校評価に関する報告

桜が丘特別支援学校

1 実施方法

- 対象は、児童生徒及び保護者、教職員に評価1～4の4段階評価でアンケートを実施
- 実施期間は、令和7年12月1日(月)から12月19日(金)まで

2 回収率

- (1) 保護者(回収率 93% 54/58)
- (2) 職員(回収率 98% 45/46)
- (3) 小・児童
- (4) 中・生徒
- (5) 高・生徒

※児童生徒アンケート結果については、各部において分析と意見の集約を行い、指導の参考資料とする。

3 アンケート結果と今後の検討課題

○結果

保護者

- ・全評価平均は 3.3(昨年度と同じ)
- ・「昨年との差」が±0.5以上の項目はなし。
※評価内容を昨年度と変更した。比較はできないが、「学校は～」という表現に変更したことで、学校としての取組・実践の評価は上がった。
- ・今年度の「評価」が3以下(低い)の項目は、なし。
- ・今年度の「評価」が3.5以上(高い)の項目は、「18」の1項目。
- ・自由記述は、1件。学校での様子についての把握、授業参観や保護者同士の懇談の機会についての意見が挙がった。

職員

- ・全評価平均は 3.2(昨年度と同じ)
- ・「昨年との差」が±0.5以上の項目はなし。
- ・今年度の「評価」が3以下(低い)の項目は、「2」と「4」の2項目。
- ・今年度の「評価」が3.5以上(高い)の項目は、「9」「10」「11」の3項目で、児童生徒指導、食事指導の部分で評価が高かった。
- ・自由記述欄は、5件。児童生徒の障害特性の理解、児童生徒の特性や実態に合った指導・支援方法、保護者との連携、摂食指導について意見が挙がった。

○検討課題

- ・自立活動の具体的な指導内容、指導場面、指導方法
- ・職員研修の在り方、児童生徒の障害特性の理解、指導方針の共有
- ・保護者との共通理解、連携方法
- ・授業参観、保護者同士の懇談の機会 等

4 来年度に向けての改善策・取組案

NO.	評価内容
	取組案・改善策案
1	<p>「友達や周囲の人たちとのつながりを大切にし、思いやりと感謝の気持ちを表現する児童生徒」が育っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画の課題や目標に、「つながり」を意識することや「表現する」ことに中心課題があったり、目標になっていたりする児童生徒が多い。(人間関係の形成、心理的安定、コミュニケーション) 具体的な支援方法や指導方法などを研修や検討会を通して、教員同士が情報を共有し、共通理解できるような機会を設定していく。
2	<p>「自分の病気や障害を理解し、健康の回復・改善のために努力する児童生徒」が育っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立活動と各教科とのつながり、日常生活へのつながりを意識して指導にあたる。 ・自立活動の時間など機会を見て、自分の病気についての理解を深める機会を設ける。 ・学部を超えた職員間で相談し合える場を、ICT研修会と隔週で実施する。
4	<p>「自分の良さや可能性に気付き、将来や自分の生き方について考え、行動できる児童生徒」が育っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の一環として、先輩の姿を見る機会、実習報告会などへ参加する。 ・職場実習を良い機会ととらえ、無理のない日数や時間を生徒と話し合いながら設定し、成功体験を積ませる。 ・学部を超えた職員間で相談し合える座談会形式の研修会を実施する。
6	<p>学校は、通知表やテスト、プリント、ノートなどを通して、子供の学習達成状況が分かるようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部で内規やシステムなどへの記入例などを引き続き検討していきながら、学習評価や達成状況などについて保護者により伝わるように工夫していく。
7	<p>学校は、児童生徒の障害特性に応じて、個に応じた指導やチームでの対応など適切な指導支援を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立活動においては集団でゲームをしたり、協力して何かを作り上げたりといったような活動内容が考えられる。そこに参加するために事前に個別指導を行うこともある。また、個別指導では不穏になったときに落ち着いてから振り返りをしたり、不穏にならないための対策を考えたりする指導を継続して行う。
8	<p>学校は、子供の実態に合わせ、リモート学習やプリント、ノートなどを活用して学習の方法や機会を工夫して指導している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、担任、教科担当者で協力しながら、リモート授業や課題の準備等をしながら、児童生徒が少しでも学べる環境を準備していく。
9	<p>学校は児童生徒の話をよく聞き、悩みに気付こうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭や関係機関での様子を聞くなど、総合的に児童生徒を理解していく。 ・自立活動の時間に個別面談の時間を設け、生徒の気持ちや悩みを聞く時間をより充実させる。(継続実施) ・カウンセラーの存在を周知させ、担任だけでなく、児童生徒が相談しやすい体制をつくる。

10	いじめの早期発見に努め、いじめのない学校づくりに取り組んでいる。
	・普段から自分も、友達も、大切な存在ということを伝えていく。 ・児童生徒との関係作り、話しやすい雰囲気・環境を整えていく。
11	学校は子供の実態に応じて、正しい食習慣(準備、マナー等)が身に付くように指導している。
	・今後も継続して、川棚特別支援学校の栄養教諭と連携し、定期的な訪問指導や迅速なアレルギー対応を心がけていく。
12	学校は、社会生活に必要なルールや決まりを子どもの実態に応じて指導し、自律につながるよう取り組んでいる。
	・生徒会として、学校生活のルールが、社会生活に繋がっていることを、児童・生徒会役員と確認しながら、他の児童生徒にも伝えていく工夫をする(継続)。
16	学校は、校内美化に努めるとともに、子供の安心・安全を守ることに取り組んでいる。
	・毎月実施している安全点検を今後も継続して、危険箇所等の早期発見に努める。 ・各クラスや授業等での清掃活動に加え、児童生徒会専門員会活動による清掃活動を実施しているが、担当の児童生徒以外が知る機会が少ないため、周知していけるようにする。
18	連絡帳や学校、学部、学年だより、学校ホームページなどで、学校の日常の様子が伝わっている。
	・学期に1回のiPadでの写真の持ち帰りを継続していく。 ・ホームページの記事の掲載については、各学部、学年の行事や学習内容に合わせて、記事を出す方向で検討する。 ・今後も、保護者へ月に1回のメール配信で、本校ホームページの掲載内容を知らせる。
その他	自立活動の指導について
	・児童生徒が活動しやすい題材、ゲームなどを取り入れ、自分のことを話す時間を設けたり、相手のことを考えて答えを出したりするなど、集団で協力する場面などを設定する。 ・自己理解から始め、少し余裕がもてるようになってから、他者の気持ちを考えることができるように自立活動でSSTなどをしながらコミュニケーションスキルを学べるようにする。 ・まずは「自分を大切にすることはどういうことか」「他者のことも自分同様に大切にすること」を道徳で考えさせる。その後、自立活動でスキルの学びをする。
その他	特性の理解、生徒指導や支援に関する研修について
	・関係する分掌部で連携して、外部専門家の研修や定期的な職員研修、長期休業中の研修を充実させる。 ・他県の病弱特別支援学校の実践を知る機会を設ける。 ・特性の理解や生徒指導を考えるため、精神科のDrに講話していただく機会を設定する。

5 学校関係者による評価（学校評議員会での助言）

○学校の立地や生徒の特性上、難しい面もあると思うが、地域交流、異年齢（高齢者等）交流での経験は、成長が大きいと思う。継続して、人間関係、コミュニケーション力の向上を目指してほしい。

○関係機関、特に医療（主治医）との連携では、学校での様子を的確に伝えて助言を得ることは重要なことである。現在の取組のように、保護者からの伝達だけではなく、生徒の様子を記録にまとめて手渡すなど、学校の困り感に対して必要な助言を得る工夫を続けてほしい。

○福祉機関との連携、情報共有については、相談支援事業所や社会福祉協議会が主催する活動や研修会に参加することで、最新情報を得たり、意見交換をしたりできる。ぜひ積極的に参加してほしい。